

旧津和野街道を活用した観光開発と 限界集落の活性化を目指して。

さ えきかんこう かい
佐伯観光ボランティアガイドの会 (一財)日本郵政退職者連盟 (広島県廿日市市)

地域活性化のためにボ
ランティアガイド募集。

今にも落ちそうな「重なり岩」を前に、小学生が口々に感嘆の声を上げます。そこに、ガイドが「津和野藩主の命令で岩を落としたのに、翌日は元に戻っていた」と、言い伝えを披露。子供たちは、興味深げに「重なり岩」を見つめています。

地元の小学生を案内しているガイドは、「佐伯観光ボランティアガイドの会」の会員です。廿日市市の佐伯地区には、江戸時代の旧津和野街道が残っています。平成19年9月、市



観光協会佐伯支部は、旧津和野街道を活用して地域活性化を図るために、ボランティアガイドを募りました。地域に残る歴史古道の発掘と、観光開発、街道沿いの限界集落の活性化に賛同、応募した25名が会員となり、「佐伯観光ボランティアガイドの会」の活動が始まりました。

街道をたどることは、
歴史をたどること。

旧津和野街道は、廿日市市と島根県津和野町を結ぶ街道で、江戸時代には参勤交代で使われていました。昔の道が手つかずのまま残り、石畳もその姿をとどめている古道です。「ガイドの会」は、全77キロのうち佐伯地域の山中にある古道を中心とする7キロを舞台に、ガイド活動を通じて歴史遺産の保全と伝承に努めています。

また、街道付近にある限界

集落(中道地区8世帯10人)が年々廃れていることを憂慮し、この地に忘れ去られている88体の古い地蔵の発掘と草取りなどを実施しています。

「ガイドの会」の定例会は毎月第2土曜日で、街道整備の日として活動しています。

平成25年度の活動状況としては、①友和小学校 津田小学校の歴史勉強会、実地学習(2回84名) ②佐伯中学校出前学習(1回50名) ③地元子供会の歴史学習(1回25名) ④ガイドの会主催によるウォーキングガイド(延べ9回参加者約100名) ⑤ガイドの会勉強会及び街道清掃(毎月1回年12回) ⑥地蔵さん発掘調査(4回)が主な活動です。

「小学校や子供会が興味を持ってくれているのは嬉しいですね。子供たちには、この地域の歴史に親しんでほしいですから」と、代表の下橋さんは語ります。

限界集落を活性化させる
プロジェクトが始動。

「ガイドの会」が目指すのは、バックツアーにはない手作りのガイドです。鳥の鳴き声をもう一度聞きたければ鳴くまで待つ、という余裕が大きな魅力です。

「今、限界集落の中道地区のお地蔵さんを発掘し、良く見えるようにする『仏の里計画』を進めています。そこに桃の木を植えて、花いっぱいのお仏の里にしたいんです。人が訪れれば集落の活性化になりますから」と、下橋さんは今後に向けての抱負を語ってくれました。

